

事務事業名		消防・防災訓練事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業																													
政策体系	政策名	0 5 やすらぎある安全なまちづくりの推進		事業期間		予算科目																													
	施策名	1 7 自然災害対策の推進		区分		会計	款 項 目 事業																												
	基本事業名	0 2 地域防災体制の強化		単年度繰返		01	09 01 02 1200																												
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																															
所属	部課名	大船渡消防署		【開始年度】		事務事業区分																													
	課長名	佐藤 礼		昭和48 年度～		A 政策事業																													
	係名	消防団係	電話	0192-27-2119																															
	担当者	村上 浩朗	内線	433																															
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)																													
<p>①消防出初式や消防演習は、多くの来賓(主に議会関係や消防関係者)の列席のもと、全団員・全車両(留守部隊を除く)による分列行進や訓練等を行い、また、組織をあげて厳粛な式典を行っている。特に市内における分列行進は、市民に大きな安心感をあたえるとともに、あわせて火災予防の意識高揚に意義のある行事と考えている。</p> <p>②防災訓練は、消防職団員による避難訓練や情報伝達訓練等を行うほか、消防関係者と地域住民が参加した総合訓練を実施している。</p> <p>③消防操法競技会は、H23～24年度は震災により未実施であるが、平成25年度より市内大会を再開したが、令和2年度から令和4年度まで新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。競技種目はポンプ車の部、小型ポンプの部に分かれており、分団各部ごとに配備されている機器で出場する。上部大会は岩手県消防協会仙仙支部大会がある。(岩手県大会、全国大会は2年に1回開催。) 事業費は、報酬として支出する。 令和4年度に消防団事業基本指針を定め、消防演習と消防操法競技会を隔年開催することとし、令和5年度については春季消防演習を開催。</p>						<table border="1"> <tr><td>総投入量(千円)</td><td></td></tr> <tr><td>事業費</td><td></td></tr> <tr><td>財源内訳</td><td></td></tr> <tr><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td>事業費計(A)</td><td>0</td></tr> <tr><td>人件費</td><td></td></tr> <tr><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td>人件費計(B)</td><td>0</td></tr> <tr><td>トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>		総投入量(千円)		事業費		財源内訳		国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費		正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量(千円)																																			
事業費																																			
財源内訳																																			
国庫支出金																																			
都道府県支出金																																			
地方債																																			
その他																																			
一般財源																																			
事業費計(A)	0																																		
人件費																																			
正規職員従事人数																																			
延べ業務時間																																			
人件費計(B)	0																																		
トータルコスト(A)+(B)	0																																		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		名称	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施し、消防職団員による連携の強化、地域住民の防災意識の高揚を図った。 ・消防演習及び防災訓練、消防出初式は、コロナ禍前と同様に開催する。 		ア	消防演習
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ	防災訓練
<ul style="list-style-type: none"> ・消防出初式を実施し、市民に安心感を与え、火災予防の意識高揚を図る。 ・防災訓練を実施し、消防職団員による連携の強化、地域住民の防災意識の高揚を図る。 ・消防操法大会を実施し、消防用機械器具取扱い及び基本操作について、消防団員の技術の向上を図る。 		ウ	大船渡市消防操法競技会
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
<ul style="list-style-type: none"> ・大船渡市消防団員 		名称	
		カ	大船渡市消防団員
		キ	
		ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
<ul style="list-style-type: none"> ・消防出初式、消防操法大会及び防災訓練を通じて、消防団員の士気高揚及び災害対応能力の向上と市民への火災予防を含めた防災意識の高揚を図る。 		名称	
		サ	消防演習参加
		シ	防災訓練参加
		ス	大船渡市消防操法競技会参加
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		単位	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害現場活動に際し、迅速、確実かつ安全で効果的な活動ができる。 		ア	回
		イ	回
		ウ	回
		カ	人
		キ	
		ク	
		サ	%
		シ	%
		ス	%

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	財源内訳	単位	年度						
				2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	1,060	900	1,136	2,347	3,610	3,610	
		事業費計(A)	千円	1,060	900	1,136	2,347	3,610	3,610	
	人件費	正規職員従事人数	人	50	50	50	50	50	50	
		延べ業務時間	時間	22,500	22,500	22,500	22,500	22,500	22,500	
		人件費計(B)	千円	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	90,000	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	91,060	90,900	91,136	92,347	93,610	93,610	
⑤活動指標		ア	回	0	0	1	1	0	1	
		イ	回	1	1	1	1	1	1	
		ウ	回	0	0	0	-	1	-	
⑥対象指標		カ	人	818	785	734	649	766	766	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	%	0	0	0	54	-	100	
		シ	%	68	60	46	57	100	100	
		ス	%	0	0	0	-	100	-	

事務事業ID	1105	事務事業名	消防・防災訓練事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	・大船渡市消防団発足(大船渡市市制施行時 昭和27年4月1日)を契機に、火災予防の意識高揚、消防職団員による連携の強化、地域住民の防災意識の高揚を図るため開始された。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	・消防団の演習等については多様化する災害を教訓に年々高度な訓練を行っている。分列行進時には沿道に出て激励する多くの市民がおり、行進している消防団員の励みや誇りとなるとともに、市民に安心・安全を与えている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・大船渡市消防団員は与えられた使命のために自信と誇りをもって行動していることから、多くの市民から期待されており、安心安全なまちづくりに貢献していると、意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ ・火災や風水害、地震、津波等の災害が発生時、安全で効果的な現場活動が行われ、やすらぎある安全なまちづくりの推進が図られている。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ ・この事業の対象である消防団は、非常勤の地方公務員である。また、消防団は、消防組織法第9条により市が設置し運用しているものであることから妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ ・地域防災力の要である消防団員が対象であることから適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ ・複雑多様化、激甚化、大規模化する災害への対応力が習得され、この効果が災害現場において十分発揮されている。また、消防出初式では、市民に安心感を与え、火災予防の意識高揚が図られている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ ・消防団員が一同に集合しての訓練や式典はこの機会しかなく、大船渡市消防団の組織行動を確認する上で重要であり、廃止や休止は消防団の組織活動衰退につながり、地域防災力が低下する。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) ・最小限の経費で運用していることから、削減の余地はない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託できないか？(アウトソーシングなど) ・必要最小限の職員で取り組んでいることから、有用な事業としていることから、削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ ・大船渡市消防団事業の一環であり、広く市民へ還元されていることから、公平・公正となっている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	団員等の負担軽減と組織力の維持のため、消防演習と消防操法競技会を隔年開催とする。
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	人口減少に伴い消防団員数も減少傾向にある。組織は一人ひとりの集まりで成り立っており消防団員の入団促進を機会ある毎に行っている。昨年度は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げを受け、出初式、消防演習をコロナ禍前と同様に実施し、市民の目に触れる絶好の機会でもあり、市民のために貢献する崇高で魅力溢れる団体であることを広くPRし、若い人たちや女性の入団を働きかけなければならないと考える。